紙様式）　　（Ａ３判横）

令和３年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 滑川町立滑川中学校 ）

目指す学校像	笑顔と幸せがあふれる滑川中学校

重　点　目　標	
	１,基礎的な知識・技能の定着を図り生徒一人一人が力を付ける学習指導の充実 ２,全教育活動における生徒理解を基盤とした組織的・系統的・積極的な生徒指導の推進 ３,生徒・教職員の動きが地域社会に信頼感を生み出し、地域とともにある学校づくりの推進 ４,自分を見つめた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校運営協議会にて、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者		
	学校関係者	８　名
	生徒	０　名
	事務局(教職員)	４　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価（　1月24日　現在　）			実 施 日　令和４年　３月１８日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【学習指導の充実】 真面目な態度で授業へ積極的に取り組む生徒が多い。 県学調では、平均ポイントで大きく上回り伸びも大きい。 しかし、文章を捉えて理解することがやや苦手な生徒やわからないことをそのままにしてしまう生徒もみられ、理解が不十分な生徒への地道な取り組みも必要である。	○基礎的な知識・技能の定着 ●学習指導力の向上 ①積極的な参加 ②話し合い活動 ③話を聞く ④家庭学習の充実	①学習状況調査の分析を指導方法の工夫改善に生かし基礎的な学力向上と主体的な学びがある授業の推進。（主体的・対話的で深い学び） ②PC端末やICTを活用した情報教育の推進 ③不読率の半減を目標にした取組と図書館配架の充実。 ④評価基準の見直しと指導に生かせる評価活動の研究・実践を通した学力の質的向上。 ⑤全教員が特別支援教育に関する知識と理解を深め日々の授業を実践 ⑥小中連携、一貫教育の推進を進め教育課程の一貫性ある実施について研究を深める。	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい生活様式に基づいた取組による安心安全な教育課程の推進ができた。 ①学校評価に係る保護者対象アンケートで、各項目で9割以上が好意的な評価をしたか。 ②教員評価で、授業力向上に9割以上が積極的に取り組んだか。	・県学調では、平均ポイントを大きく上回っている。各教科で工夫し要点を抑えた授業が展開されている。引き続き、更なる効用に向けて工夫したい。 ・話し合い活動では、教員側では、話し合いの機会をできるだけ設けているつもりだが、生徒（１１．３％）や保護者（１９．７％）が話し合いに参加できていないと答えた。 また、家庭学習の定着が習慣化していないことが分かった。 新型コロナウイルス感染症予防と新しい生活様式での話し合い活動を今後も模索する必要がある。	A	・評価②については、教員が話し合い活動をさせていると回答しているのに対して生徒が積極的に意見ができていないと回答している。 話し合いに参加できていない生徒の多くは課題が理解できていないことが多いので、手立てを教員側が持ち、その支援の工夫が大切である。また、話し合いのルールを明確化し、役割を持たせ、学ぶ意欲を高める。評価項目④については、家庭学習の習慣化と課題提示や計画表、学習ノートの活用など行う。 自主学習の習慣化により、自己肯定的な態度が身に付き④にの向上につながると考える。 ・タブレットを活用した効果的な教育活動の推進を図る。	・コロナ禍での本町の生徒への教育推進に向けて、先生方は様々な工夫を行い、全力で取り組んでいる。 ・学習指導の充実においては、県学調の結果を見てもおおかた生徒の学力は順調な伸びを示している。また、ICT機器やＧＩＧＡタブレットを積極的に活用している。今後は、情報モラルの向上を生徒指導部会や教育相談部会等と協力しながら高めていくことが必要である。 ・話し合い活動は、コロナ禍における教師側の工夫が今後も求められる。 ・全体的に十分満足な結果であり、目標とした取組が８割程度達成されたものと認める、おおかた満足な取組であった。
2	【生徒指導の推進】 落ち着いて学校生活を送ることができている。しかし、様々な要因が起因となり不登校となる生徒が増加している。 生徒を理解し、素早い対応や根気強い取組みを外部機関と連携しながら組織的に推進し、自己有用間を高めながら対応する必要がある。	○基本的生活習慣の定着 ●積極的な生徒理解のための取組 ①挨拶・ルール ②他の意見の尊重 ③清掃・美化活動の取組 ④協力・認め合い	①不登校生徒０を目指した教育相談体制の確立と生徒、保護者との信頼関係の構築 ②「時を守る」を基本とした基本的な生活習慣の徹底。 ③報告・連絡・相談の徹底と職員間の情報共有と組織的指導 ④職員研修の充実と教育相談的手法の習得。	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい生活様式に基づいた取組による安心安全な教育課程の推進ができた。 ①生徒・保護者アンケートで、挨拶・ルールが9割以上が好意的な評価したか ②不登校生徒の減少 ③職員評価（別紙）で、8割以上が好意的な評価をしたか。	・新型コロナウイルス感染症対応のなか、先生方と保護者が協力し、出来るだけ多くの生徒と接したり、アンケートやチャンス相談の中から、コミュニケーションを図り、信頼関係の構築を図ることが出来た。 ・学習支援室の開設に伴い不登校生徒の内、５名程度がそれぞれの時間で登校できた。 ・あいさつはおおかたできている。	A	・教員の連携を図り、学年を越えた指導ができるようにしたい。また、指導の一体化を図るために、共通理解を図り、指導にぶれが出ないようにしたい。 ・主体性のもと活動できるよう目標の設定や課題解決をする。そのためにどんなことが出来るかを考えながら解決できる力の育成を図る。 ・主体的な清掃活動ができるように心の育成を中心に指導したい。	・不登校を０を目指した教育相談不登校対策は、教育相談主任を中心に相談部会の定例化、資料による共通理解により、学年を越えた情報の共有が推進できた。また、長い月日により発現された心のひずみは、学年を越えた多くの大人の関わりが必要なため、今後も全職員の関わりが大切である。 ・基本的生活習慣は、すべての活動に影響するため、共通理解のもと推進することが大切である。 ・教育相談の研修を充実する必要がある。 ・保護者との信頼関係を構築することは、本校教育活動を推進する上でなくてはならないものである。（職員の言語活動の充実）
3	【地域とともにある学校づくり】 地域から一定の好意的評価を得ているが、生徒の地域行事への参加数の低下や新型コロナ禍で計画したことができない現状がある。その中で、学校の情報発信は、学校だよりやシステムを改善した学校ホームページへのアップにより 推進できた。しかし、地域と向き合った教育活動がややできず、学校公開も今後の課題である	○生徒・教職員の地域協働活動への積極的参加。 ●社会に信頼感を生み出し、地域とともに歩む学校づくりの推進。 ①地域と交流 ②地域で挨拶 ③学校の様子の発信 ④地域協働活動への関わり	①地域人材を活用した教育活動の実践と地域教育力の向上 ②教育活動の地域への積極的発信 （広報活動の充実） ③教育活動の理解に向け、学校行事等の積極的な地域への公開	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい新しい生活様式に基づいた取組により、安心安全な教育課程の推進ができた。 ①保護者アンケートで9割以上が好意的な評価をしたか。 ②地域協働活動への積極的な関わりの増加 ③地域人材の活用	・地域人材や多方面の指導者の活用が積極的にできた。 ・コロナ禍でのキャリア教育や防災教育など地域の教育力を活用し、出来る体験を通し効果的に推進できた。 ・学校だよりや学校ホームページの活用がスムーズになり、タイムリーな情報発信ができるようになった。 ・滑川中の伝統であるひまわり活動の工夫を行い、新しい方向性を確認し取組めた。	A	・コミュニティースクール推進に向けて、地域人材の活用を積極的に推進し、効果的な活動を行う。 ・本校を、今年度地域防災元年と位置付け、地域と密着した防災教育を推進する。 ・学校ホームページや様々な方法により学校の情報発信を行い、地域に知ってもらう活動を推進する。 ・地域ボランティア活動の推進と心の伸長を目指した教育活動の推進。	・コミュニティースクール元年で、地域人材等を積極的に活用している。また地域との連携の中、地域連携防災教育を推進できたことは、今日の防災教育にはなくてはならないものであり、今後のより一層の推進を期待する。 ・ひまわり活動の推進と地域を愛する生徒の育成に向けた地域学習（総合的学習の時間）の工夫が必要。地域文化財や地元の歴史を知ることは、多くの住民が新しく転居してきた本町では必須である。今後の工夫が必要と思われる。 ・取組は、おおかた満足であった。
4	【キャリア教育の推進】 9年間を見通したキャリア教育推進のため、本年度よりキャリアパスポートを活用した指導の充実を図る事が大切である。本校生徒が将来の目標実現のための「小・中・高」そして地域との連携は積極的に行われている。しかし、自分の将来について考える事や保護者と話し合うことは十分とは言えない。	○自分で見つけた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進。 ●9年間を見通し、キャャリアパスポートを活用した教育計画の作成。 ①進路だよりの適切な発信 ②適切な進路学習 ③自分の将来について考察 ④進路について家族との会話	①今できる小・中・高等学校等との連携を強化する。 ②各学年の進路学習で、新しい生活様式に基づいて発達段階に応じた効果的な活動を模索しキャリア教育を推進する ③今できる社会体験チャレンジ事業を通して、望ましい勤労観や職業観を持たせる。 ④キャリアパスポートの効果的活用を図る。	○新型コロナウイルス感染予防対応と新しい生活様式に基づいた取組により、安心安全な教育課程の推進ができた。 ①保護者アンケートで9割以上が好意的な評価をしたか。 ②キャリアパスポートを活用し9年間を見通した活動ができたか ③地域人材を積極的に活用し、教育力の向上を目指したか	・地域連携を推進し、地域の高校教諭を招聘し、進路学習を行った。 ・コロナ過で中止となった職場体験チャレンジの代わりとし、新たな取組を企画し取組むことが出来た。 ・小学校との連携を密にするため、本校教諭が小学校で授業を行うなど中１ギャップの解消に努めた。また、部活動見学会を１２月から定期的に行い、早い時期から部活動選択に向けた取組ができた。	A	・９年間を見通した進路指導の充実を図るために、キャリアパスポートを活用した計画的な指導の充実。 ・コロナ禍でのキャリア教育の工夫として、オンラインを活用した、中高の生徒同士の交流や、小中の交流を積極的に行っていくことも良いのでは。 ・保護者との連携を図り、生徒と保護者との話し合いの中で、将来の目標を明確にする工夫を行う必要がある。	・９年間を見通した進路指導を充実させるためには、活用計画を見直す必要があるのではないか。 ・進路だよりやオンライでの講演会や交流など工夫された取組ができている。 ・コロナ禍感染予防対策で今年度も社会体験チャレンジは出来なかったが、工夫し新たな方法で実施できたことは素晴らしい。 ・保護者を交えた９年間を見通した、進路指導計画の作成が今後必要であると思われる。 ・コロナ過での進路指導の推進は、おおかたできたと思われる。先生方の努力が感じられた１年であった。